

3 指導計画（総計14時間）

過程	主な学習活動と内容	教師の支援と子どもの評価活動 教師の支援 子どもの評価活動
であう	<p>1 実際のボウリングをビデオで観る。 ・ボウリングゲームをしている様子 ・点数を付けている様子 ・ピンが倒れて喜んでいる様子</p> <p>2 クラスにある道具（ボールとペットボトル）でボウリングをし、より楽しいボウリングにするために準備しなければならないものや簡単なルールを考える。 聴き合い活動 ・ボウリングの道具について ・ボウリングの場の設定 ・点数について ・ボールを投げる位置 ・ルール</p> <p>3 ピンや会場を作る。 ・ペットボトルや牛乳パックを使ってのピン作り ・看板作り</p> <p>4 楽しむために役割分担をすることを知り、自分達で用意したピンやボールを使ってボウリングをする。 ・自分の役割を確認する。 ・できるだけ道具も自分達で準備する。</p>	<p>実際のボウリングが分かるようにビデオを準備しておく。 どのようにしてボウリングをするのかを想起しやすいように、具体物や写真などを提示する。</p> <p>教師が聞き役となり、共感的態度で受け止め、分かりやすく話したり聞いたりすることができるようにする。 話し合ったことを板書し、振り返りやすいようにする。</p> <p>作り方がわかるよう見本を作って見せる。 友達どうして助け合いながら作ることができる。</p> <p>実際の活動に近い形で活動できるように、ボウリングの道具を用意し、役割を交代しながら活動する。 役割を覚えたり、教え合ったりしながらボウリングをする。</p>
さぐる	<p>5 ボウリングを楽しむ。 (1) ボウリングのセッティングの練習をする。 (2) スコアを付ける練習をする。</p> <p>(3) 役割分担（ピンを数える、スコアを付ける、ピンを立てる、ボールを渡す、ボールを転がすなど）をしていくなかで、困ったときにはどうするかを考える。</p> <p>(4) 友達どうし関わり合ってボウリングをし感想を発表する。 聴き合い活動 【くすのき学級本時】</p>	<p>セッティングの場所が分かるように、シールを貼り、箱も用意しておく。 計算がしやすいように、はじめは1ピンにつき1点で計算していく。慣れてきたら、B児C児に関しては、色や形、位置によって違う得点を提示して計算活動に変化を加えるようにする。 活動途中で協力し合った場面があったときは、タイミングよく誉める。後日、発表の資料となるように、写真を撮る。 困っている友達に教えたり、困っている友達を助けたりするよう促す。 友達と関わりながら活動に取り組めるよう、ペアを組んだり遊び方を工夫したりする。 役割を守ったり、友達を待ってあげたり、教え合ったりしてボウリングを楽しむことができる。 感想を発表するときは、自分の気持ちだけでなく、友達がしてくれたことや、そのおかげでボウリングを楽しむことができたことも話せるように支援する。 友達がしてくれたことに気付き、感謝することができる。</p>

<p>まとめる</p>	<p>6 ボウリングの活動を振り返り，協力してできたことを作文に書いたり，写真を選んだりして発表する。</p> <p>(1) 写真を選ぶ。</p> <p>(2) 作文を書く。</p> <p>(3) 順に発表し，お互いに聴く。</p> <p>7 次単元「ボウリングにいこう」についての話を聞く。</p>	<p>作文に書くときは，習った漢字は使うよう促す。</p> <p>発表するときは「発表してもいいですか」と相手に尋ね，相手を振り向かせてから発表するよう促す。</p> <p>相手に伝わるよう，ゆっくり大きな声で話すよう促し，相手を常に意識するようにしていく。</p> <p>A 児の発表のときは，選んだ写真を見せながら，友達に詳しく伝わるように教師と一緒に発表する。</p> <p>友達と協力し合っただけことを，分かりやすく伝えようとする。</p> <p>発表を聴くときは，友達の方に顔とへそを向けて聴くよう促す。</p> <p>友達の方に顔とへそを向けて聴く。</p> <p>これからもいろいろな機会において，友達のよかったところやがんばったことを認め合い，協力し合っただけという気持ちをもつように促す。</p> <p>次単元「ボウリングにいこう」に対して，期待感をもたせるように話をしておく。</p>
-------------	---	---

4 本時「ボウリングをしよう」(13/14)

5 本時の目標

進んで準備をし、ルールを守ってボウリングを楽しむことができる。(関心・意欲・態度)
友達がいっしょに協力してくれたことを発表し、友達のがんばりをほめる。

(技能・表現)

6 本時指導の考え方

子ども達は本時までには、教室をボウリング場に見立てて装飾したり、ボウリングのピンを作ったり、役割分担を決めたりして、自分達でボウリングを楽しもうとするようになってきている。役割分担では、一人二役の場面も出てきたが、繰り返し活動し、友達どうして教え合うことで覚えてきた。友達のペースに合わせる活動もできるようになってきた。

本時では、ボウリングをすることで、友達と役割を守ったり、友達を待ってあげたり、教え合ったりと、友達との関わりを深めることをねらいとしている。ゲーム後の感想の発表では、自分のことだけでなく、友達がしてくれたことにも気づき、友達の協力のおかげでボウリングを楽しむことができたことに気付くようにしたい。

導入の段階では、前時までの写真を見て、役割を確認し、順番を守って、より楽しくボウリングをするというめあてを持たせ、活動に対する意欲をもたせたい。

展開の段階では、ボウリングの準備を友達と一緒にしたり、順番や役割を決めたりしたあと、ボウリングをする。ピンを数えるとき、A児が数えやすいように1対1ボックスを用意する。スコアを付けるとき、B児C児に関しては、色や形によって違う得点を提示したりして、計算活動に変化を加えるようにする。計算がしやすいように、電卓を用意する。ボウリングが終わり、スコア総計のときは、数の大小が分かるように高さで比較できるように工夫する。活動途中でも、友達と協力し合った場面があったときは機会を逃さずほめることで、協力することの大切さや楽しさが分かるようにしたい。

終末の段階では、ボウリングの感想を発表させる。聴き合い活動では、教師が聞き役となり、友達の発表を共感的態度で受け止め、分かりやすく話したり聴いたりすることができるようにする。自分の気持ちだけでなく、友達がしてくれたことを発表し、友達のがんばったことをほめあうことで、友達のよさに気付かせたい。発表を聴くときは、友達の方に顔とへそを向けて聴くことで、友達の意見を大切に育てていきたい。

7 準備

教師 ボール、ペットボトル、牛乳パック、砂、水、得点板、掲示板、児童の顔写真
色別のカード、数字カード、電卓2、ホワイトボード、マーカー
1対1対応ボックス、紙テープ(スコア総計のときに使用)

8 本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	教師の支援と子どもの評価活動 教師の支援 子どもの評価活動
<p>1 学習のめあてを確認し，活動の見通しを持つ。 <本時のめあて> ボウリングゲームを楽しむぞ！！</p> <p>2 ボウリングの準備をする。 (1) 友達と一緒に道具を運んだり，ピンを立てたりする。</p> <p>(2) 順番や役割を決める。</p> <p>3 役割分担をして，ボウリングをしていく。 (1) ボウリングをする。 <役割分担例> B 児 C 児 倒れたピンを数える。 倒れたピンを立てる。 ボールを渡す。 点数をつける。 スコアの総計を電卓で計算する。 (A 児の補助)</p> <p>A 児 倒れたピンを数える。 倒れたピンを立てる。 ボールを渡す。 教師といっしょに発表の準備をする。</p> <p>(2) 結果発表を見たり聞いたりして，点数を知り，お互いのがんばりをたたえあう。</p> <p>4 ボウリングの感想や友達がしてくれたことを聴き合う。 聴き合い活動</p> <p><聴き手としてのめあて> 友達の方に顔とへそを向けて聴く。</p> <p><話し手としてのめあて> ゆっくり大きな声で話す。</p> <p>5 本時学習をまとめ，次時学習について知る。</p> <p>6 協力して，ボウリングの後片付けをする。</p>	<p>めあてを確認しやすいように，役割について写真を提示する。 活動に対する意欲を持たせるために，これまでの様子を，写真などを提示する。</p> <p>ピンをどこに立てるのが分かるようにシールを貼っておく。場合によっては，立てやすいように間隔をあけたり，本数を少なくしたりする。 待つ見通しや役割が分かるように，ボードに道具の写真と友達の顔写真を並べて貼る。</p> <p>活動途中でも協力し合った場面がみられたときは，機会を逃さずに認めてほめる。 友達と関わりながら活動に取り組めるよう，ペアを組んだり遊び方を工夫したりする。 A 児がピンを数えやすいように「1対1ボックス」を用意する。 B 児 C 児が計算しやすいように，電卓を用意する。 慣れてきたら，B 児 C 児に関しては，色や形によって違う得点を提示したりして，計算活動に変化を加えるようにする。 役割を守ったり友達と助け合ったりしながらボウリングを楽しむことができる。</p> <p>結果発表は，高さで数の大小が比較できるよう工夫したボードで行う。</p> <p>発表するときは，自分の気持ちだけでなく，友達がしてくれたことも発表し，友達のがんばったことを認め合うことで，友達のよさに気付かせる。 相手に伝えるために，ゆっくり大きな声で話すよう促し，相手を常に意識するようにしていく。 A 児の発表のときは，友達に詳しく伝えるように教師と一緒に発表する。 友達がしてくれたことに気付いている。 発表を聴くときは，友達の方に顔とへそを向けて聴くよう促す。 友達の方に顔とへそを向けて聴く。</p>